

水戸のあゆみ

～水戸空襲を考える～



弘道館周辺と水戸城の濠



保和苑と周辺史跡



偕楽園公園と千波湖周辺



水戸芸術館



市の木 (梅)



市の花 (萩)



備前堀



水戸市森林公園と楮川ダム



ダイダラボウと大串貝塚ふれあい公園

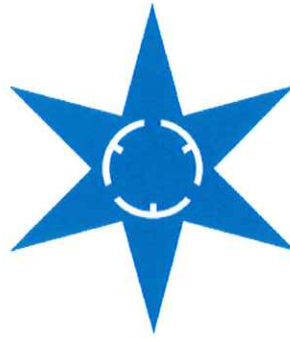


大塚池



市の鳥 (ハクセキレイ)

新水戸八景



水戸市章



みとちゃん

水戸市立第五中学校

3年 安藏 咲希

(1) 研究した動機

私はこれまで郷土の歴史を 4 年間調べました。1 年目は笠原水道と水戸市水道の歴史、2 年目は大日本史編纂～水戸学への道～、3 年目は徳川慶喜～水戸で育った最後の将軍～、4 年目は茨城県誕生までの道のりです。私たちの郷土にはとても優秀な人材が育ち、また歴史ある地域だという事が分かりました。

前回、茨城県が成立した経緯を調べました。その県庁所在地となって栄えたのが水戸市です。では水戸市はどのようにして成立したのか、どのような歴史があるのかと思い、今回調べてみようと思いました。

(2) 研究の進め方

- 本やインターネットを活用します。
- これまで調べた郷土の資料を活用します。
- 実際に関連史跡に行き自分の目で見て話を聞きます。
これらをもとに水戸市の歴史と水戸空襲について調べていきます。

(3) 研究した事 水戸市の歴史

まず水戸という地名の由来を調べました。古くから海や川の出入り口を「みと」又は「みなと」と言いました。那珂川と千波湖の間に挟まれた台地にあり、その地形上の理由から「水戸」と呼ばれるようになったとされています。

現在の千波湖は大正時代に埋め立てられるまで、現在の 3 倍ほどの大きさがありました。水戸の中心地は水に囲まれ天然の要塞として栄えていきます。

水戸という地名が文献上初めて現れたのは鎌倉時代です。古くから水戸という地名が使われていた事が分かります。

ではいつ頃から水戸で人が暮らしていたのか？ それはおよそ 3 万年前、旧石器時代にまでさかのぼります。水戸市では赤塚遺跡から出土した石器が最も古く、この時代から人々が水戸で暮らしていたことが分かります。



茨城県庁 (H29 年度)



千波湖



赤塚遺跡

• 古墳時代には全国的に権力者が大きな古墳を築きました。水戸で最も古い古墳は 4 世紀中ごろに造られた飯富町にある安土星古墳です。現在は駐車場や公園になっています。

• 市内で最も大きな古墳は愛宕町にある愛宕山古墳です。全長 136.5m の前方後円墳で県内でも第 3 位の規模の大きさをほこる古墳です。

奈良時代になると律令制による新しい政治のしくみが出来ます。国・郡・里制がとられ水戸地方は常陸国那賀郡に属します。常陸国の国府は現在の石岡市に置かれ、各郡には郡役所が設けられました。那賀郡役所は渡里町の長者山付近ではないかと言われています。近くには台渡里廃寺跡がありこの地は古代の水戸の中心地でした。



安土星古墳跡



愛宕山古墳



台渡里廃寺跡

平安時代の終わりの頃、地方の豪族、馬場資幹が現在の水戸一高がある場所に館を構えました。これが水戸城のおこりで、この地が以降水戸の中心地となっていきます。馬場資幹は常陸大掾に命じられ常陸の国の国務を取り仕切りました。馬場大掾氏の水戸支配はその後 230 年続きます。

鎌倉時代が終わり水戸の支配は河和田城の城主、江戸道房に変わります。馬場大掾氏が水戸を留守にした隙に水戸城を攻めて奪いました。江戸氏が水戸を治めるようになってから水戸城としての整備が行われていきます。江戸氏は水戸城を本拠地として 160 年にわたり水戸を支配しました。

続いて水戸を治めたのは佐竹氏です。佐竹義宣は常陸太田を本拠地として勢力を拡大しようと江戸氏へ水戸城の明け渡しを求めましたが、拒まれたため水戸城を攻撃し江戸氏を追放しました。佐竹氏が水戸城に入ってから水戸には商人の町が出来て城下町としての形がととのいます。

水戸一高にある薬医門はこの頃に建てられたもので大切に保存されています。

佐竹氏は常陸国の大名となりましたが、関ヶ原の戦いで徳川方に味方する態度がはっきりしなかった理由で秋田へ国替えを命じられ水戸を去りました。治めていたのはわずか 12 年だったといえます。



河和田城跡



水戸城薬医門



水戸城本丸跡

江戸時代となり佐竹氏の後は徳川家康の五男、武田信吉が水戸城主となりました。しかし 21 歳の若さで亡くなり、その後まだ 2 歳だった十男、徳川頼宣が城主となりましたが水戸へは一度も来る事もなく十一男の徳川頼房が水戸城主となります。この頼房が水戸徳川家の初代藩主となり明治の廃藩置県まで栄えます。

2 代藩主となったのが水戸黄門として知られる徳川光圀です。現在でもとても親しまれていて遺徳をたたえ、昭和 36 年から夏のイベントとして水戸黄門まつりが行われています。

光圀が行ったおもな事業は笠原水道の建設、大日本史編纂です。

笠原水道は日本で 18 番目に出来た水道で、飲み水に困っていた人々の為に造られました。今のように機械がない時代に 1 年半という短期間に全長約 10 km の笠原水道は完成しました。

大日本史は正しい日本の歴史を書き残そうと光圀が編纂を開始しました。光圀が亡くなってからも歴代水戸藩主により編纂が進められ、完成したのが249年後の明治39年の事でした。



徳川頼房公像



笠原水道 (H26年度)



水戸彰考館跡 (H27年度)

9代藩主、徳川齊昭は光圀と並び称される藩主です。齊昭は幕末の藩政改革に功績を残した人物で藩校弘道館の建設、偕楽園の造成を行いました。これらは現在、水戸の観光名所になっています。



藩校弘道館 (H29年度)



偕楽園 (H28年度)



徳川齊昭七郎磨像 (H28年度)

光圀の時代、大日本史編纂事業で培った、天皇を敬う尊王思想と齊昭の時代、外国からの侵略に備え打ち払おうとする攘夷思想とが結びつき、尊王攘夷思想に発展します。これが水戸藩で生まれた水戸学です。水戸学は全国に広まり明治維新につながります。

この頃の水戸藩は派閥が分かれていました。保守派の諸生党、改革派の天狗党です。2つの派閥は争い、やがて戦いへと発展します。天狗党は徳川慶喜を頼り京都を目指します。しかし現在の福井県敦賀市で降伏し352名が処刑されるという悲劇が起こりました。

その頼りとされた徳川慶喜は徳川齊昭の七男として生まれ、水戸藩から初めて誕生した将軍です。15代将軍となりましたが時代の流れから大政奉還をして、264年続いた江戸幕府は終わりを迎えます。

時代は明治となり天皇を中心とした国家づくりが進められます。明治4年(1871年)7月14日、明治政府は廃藩置県を行いました。これまであった藩は無くなり新たに県が置かれます。水戸藩は水戸県となりました。同年11月13日には県の統廃合が行われ茨城県が誕生します。水戸の弘道館には県庁が置かれ水戸が県政の中心地となります。



吉田松陰水戸留学の地 (H27年度)



松原神社 (H27年度)



徳川慶喜像 (H28年度)

明治4年(1871年)政府は戸籍法を定めます。それにもない大区小区制が行われました。茨城県の下に大区を置き大区の下に小区を置きます。現在の感じだと茨城県水戸市三の丸付近は茨城県第1大区1小区という感じでしょうか。このように数字で区域が表されました。

私が住んでいる水戸市堀町はどうだったのか? 気になってみたので調べてみました。

- 明治6年 大区小区制 = 第6大区 1小区
- 明治8年 大区小区制 改正 = 第1大区 5小区 でした。

改正したら分かりにくくなるのでは? と思いました。

明治11年(1878年)に郡区町村編制法により大区小区制は廃止となります。水戸は東茨城郡に属します。郡役所は水戸市東柵町に置かれました。東茨城郡は今でもあり茨城町、大洗町、城里町がこれに含まれます。



東茨城郡役所



東茨城郡役所があった場所

明治21年(1888年)政府は市制町村制を公布します。翌年4月1日に市制がしかれ水戸市が誕生しました。明治22年に市となったのは全国で40市でした。関東では東京、横浜、水戸の3市のみでしたので、当時の水戸は関東で有数の都市だったことが分かります。

水戸市になるのにも苦労がありました。それは人口です。市制施行基準の25,000人に達していませんでした。それを補うため水戸は隣接する常磐村、吉田村、細谷村、浜田村の一部を編入合併しています。

村の整理も行われ、現在の水戸市域には15ヶ所の村が成立しています、東茨城郡上大野町、酒門村、吉田村、緑岡村、常磐村、河和田村、上中妻村、渡里村、飯富村、山根村、下大野村、稲荷村、大場村、那珂郡柳河村、国田村の村々です。

水戸市の初代市長は服部正義です。天保10年(1829年)に藤沢小路に水戸藩士の三男として生まれました。天狗党に属し幽閉されたが赦免となります。その後、戸長や郡長を務め水戸に市制が施行されると初代の水戸市長に選ばれました。

市役所は鉄砲町にあった上市戸長役場に臨時で置かれました。明治23年には現在の義公生誕の地付近に新庁舎が建てられています。水戸市役所は現在、駅南にあります。昔は駅北にありました。戦争で焼失したり場所が狭くなったりなどの理由で何度か建て直されています。



水戸市初代市長 服部正義



臨時に置かれた市役所があった鉄砲町

水戸市役所の移り変わり

初代市役所

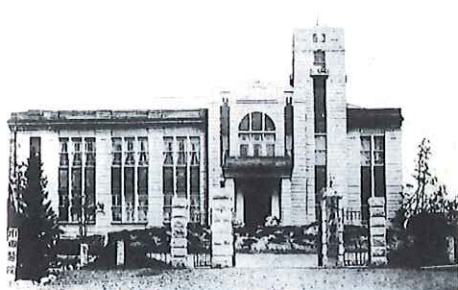


現在の様子



- 初代市役所 明治 23 年（1890 年）建設 現在の義公生誕の地（柵町旧中御殿跡地）

2 代目市役所



3 代目市役所



現在の様子



- 2 代目市役所 大正 7 年（1918 年）建設 空襲により焼失
- 3 代目市役所 昭和 30 年（1955 年）建設

現在の京成ホテル
//

4 代目市役所



5 代目市役所（建設中）



5 代目市役所現在の様子

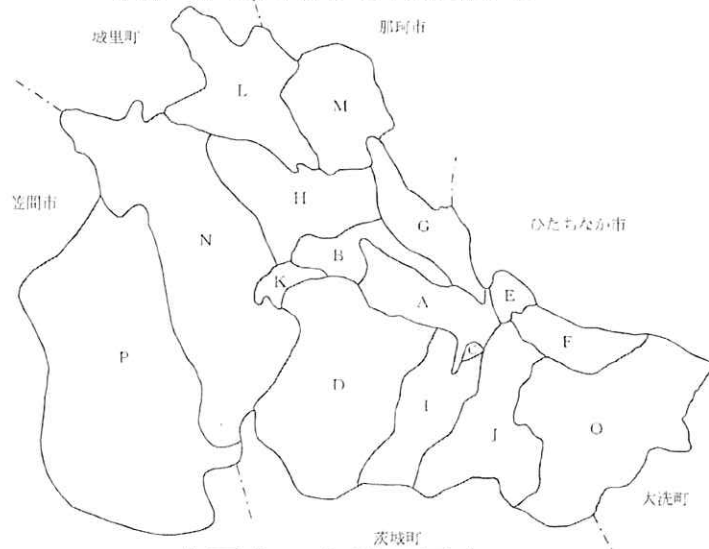


- 4 代目市役所 昭和 47 年（1972 年）建設 水戸市中央
 - 5 代目市役所 建設中 全体オープンは平成 31 年 1 月 4 日予定 水戸市中央
- ※戦後の仮庁舎は含んでいません。

昭和 28 年（1953 年）に町村合併促進法が制定されます。これにともない水戸市に隣接する各市町村では合併の動きが出てきました。当時の水戸市はまだ小さな市でした。周囲の村と合併を繰り返し現在の水戸市が出来たのです。

そこで水戸市が出来てからの市域の広がり人口、世帯数をまとめてみました。

水戸市の合併による広がり



水戸市の合併の歴史

区分	合併年月日	水戸市へ合併した 旧市町村名	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
A	明治 22 年 4 月 1 日	市制施行 水戸市誕生	6. 17	25,591	5,052
B	昭和 8 年 3 月 15 日	常磐村	13. 26	64,771	12,950
C	昭和 24 年 11 月 3 日	吉田村の一部	13. 37	67,885	15,824
D	昭和 27 年 4 月 1 日	緑岡村	39. 23	82,351	18,696
E	昭和 27 年 4 月 1 日	上大野村の一部			
F	昭和 30 年 4 月 1 日	上大野村	86. 93	110,436	23,850
G		柳河村			
H	昭和 30 年 4 月 1 日	渡里村			
I	昭和 30 年 4 月 1 日	吉田村			
J		酒門村の一部			
K	昭和 30 年 4 月 1 日	河和田村の一部			
L	昭和 32 年 6 月 1 日	飯富村	111. 54	120,775	26,065
M		国田村			
N	昭和 33 年 4 月 1 日	赤塚村	146. 02	132,944	28,558
O	平成 4 年 3 月 3 日	常澄村	175. 90	246,600	88,644
P	平成 17 年 2 月 1 日	内原町	217. 45	262,603	104,521
現在	平成 28 年 10 月 1 日	水戸市	217. 32	271,047	118,953

この様に合併し、水戸市は大きく発展して行きました。

昭和 37 年（1962 年）住居表示に関する法律が施行されました。これは人口の増加にともない、市域が拡大して従来の町名や地番では不便となってきたので、町名を合理的に整理、統合することが目的でした。

水戸市でも昭和 41 年～昭和 55 年にかけて実施され江戸時代から親しまれた城下町にちなんだ 164 の町名が失われました。水戸市ではこの町名が忘れられるのは惜しいとの考えから旧町名の標示柱を設置しています。

- ・黒羽根町は栃木県黒羽根からの移住者が多かった。
- ・肴町は魚問屋や魚商人が多く集まった場所。
- ・鉄砲町は名前のおり鉄砲細工職人が多く住んでいた。

など地名の由来を調べると、どの様な場所か想像が出来てとても面白かったです。



黒羽根町標示柱（宮町）



肴町標示柱（本町）



鉄砲町標示柱（五軒町）

～水戸空襲を考える～

水戸には明治の終わり頃、歩兵第二連隊の兵舎が現在の茨城大学に、工兵第十四大隊が現在の附属中学校に出来ました。水戸に軍事施設が建てられた事により、付近には商店街が出来て住民も増え活気づきました。歩兵第二連隊は「茨城郷土部隊」と呼ばれ、国外の戦いに参加しシベリア出兵での尼港事件やパラオ諸島ペリリュー島で多く犠牲を出しました。



歩兵第二聯隊跡地 茨城大学



尼港殉難者記念碑



ペリリュー島守備部隊鎮魂碑

昭和16年（1941年）には太平洋戦争が始まり戦争は激しさを増していきます。そして日本本土への空襲が全国各地で行われます。

昭和20年（1945年）8月2日未明、水戸市はアメリカ軍のB29戦闘機160機からの焼夷弾による空襲により、市街の約8割が焦土と化しました。水戸の被害状況は次のとおりです。

水戸空襲における被害状況	
水戸空襲時間	昭和20年8月2日午前0時31分～8月2日午前2時16分
投下された爆弾の量	1,152トン
罹災戸数	10,104戸
罹災人員	50,605人
死者数	242名 ※後の調査では300人以上
重傷者	144人
軽症者	1149人
空襲で焼失、破壊された主な建物	市役所 水戸駅 水戸城 東照宮 常磐神社 茨城師範学校 水戸中学校 他多数

この様に水戸市にあった歴史的建造物や、学校施設は焼失、破壊されました。

昭和20年8月15日、日本は無条件降伏して長い戦争は終わりを迎えます。

水戸空襲直後と現在の様子



戦災直後の水戸駅前



現在の様子



戦火に耐えた大銀杏



戦災直後の水戸郵便局前



現在の様子



水戸平和記念館 焼夷弾

曾祖母に戦争について聞いてみました。

私の曾祖母は昭和4年生まれで、戦時中や水戸の空襲を経験しています。私は曾祖母に戦時中の事や水戸空襲について聞いてみました。

Q・戦時中の事を教えてください。

A・戦時中は配給暮らしで生活物資が不足し、米だけでは足りなくてイモなどを混ぜて食べていました。蔵の中に米があると強権発動により強制的に供出させられました。自宅の真上から低空で機銃掃射が行われた事もあります。怖くて布団をかぶりました。今、カミナリが怖いのはこの時の銃声からきてるのかも知れません。電話局に勤めていた時、職場の2階から戦闘機の空中戦を見ました。日本の戦闘機が何機も撃墜されていました。しかし放送ではアメリカ軍の戦闘機を何機、撃墜などとされ日本が勝っていると思わされていました。

戦争が終わり、兄3人が戦地から帰って来ました。無事で嬉しかったのですが、近所の家では戦地から帰って来ない人もいたので、両親は喜んでばかりいられなかったのではないのでしょうか。

Q・水戸空襲の時の様子を教えてください。

A・当時はまだ15歳。水戸市の黒羽根町にあった電話局で電話交換の仕事をしていました。水戸空襲があった日は夜勤がなく、堀町の自宅に家族でいました。空襲警報のサイレンが鳴り水戸の町が焼夷弾で明るくなっていたので空襲に気づき、家族で近くの山に何も持たずに逃げました。深夜だけど昼のように明るく、針の1本まで分かるような明るさでした。

家は空襲があった場所から離れていたのが無事でしたが、職場の電話局は燃えてしまいました。夜勤をしていた同僚は全員逃げられて無事でした。桜川に飛び込んだそうです。朝になり水戸の町に向かうと、舗装された道はアスファルトが溶けてドロドロになり熱くて歩けません。途中、焼夷弾の弾片がたくさんあり、真っ黒な焼死体が何体もあったのでとても悲しい気持ちになりました。



曾祖母と私



戦争の話を聞いている様子



曾祖母 戦後間もない頃

(4) 研究のまとめ

郷土の歴史を調べて5年目の今回は、水戸市のこれまでのあゆみを調べました。

昨年は茨城県が誕生した経緯を調べ、茨城県の県庁所在地で、私が暮らしている水戸市の歴史を今回調べる事により郷土愛がより深まった感じがします。

理由は水戸の歴史はとても長い事が分かり、歴史を調べる事により水戸市はどのように成立したのか分かったからです。普段、何気なく生活している場所でも古い歴史があり、どの様な所なのか調べる事が大切だと思いました。

水戸市は市制がしかれた当初は小さな規模の市でした。昭和に入り周辺の村と合併し現在の水戸市域となります。私が住んでいる堀町は渡里村として昭和30年に水戸市に合併しました。昔の話を聞いていた時に、祖母は昭和29年生まれで渡里村の時に生まれたと聞きました。水戸市に合併した歴史はまだ浅いのだと感じました。

今回は水戸の戦時中の事や水戸空襲について、曾祖母から話を聞く事が出来ました。話を聞いて戦争という事がとても恐ろしい事だと再認識させられました。戦時中は人と人が争い、兵器を使って人を殺める。このような事がこれから先、おきてはいけないと思いました。

水戸空襲で焼け野原になってしまった水戸市は戦後、急速に戦災復興がされ発展していきます。空襲後の古写真を見た時に、銀杏の木に目が留まりました。現在でも大きな銀杏の木があります。焼夷弾で焼かれ全体が黒焦げになっても、新しい芽が出てよみがえり被災した人々に勇気を与えたと言う事がとても印象に残りました。

終戦から73年、戦争や水戸空襲は遠い時代の出来事になってきています。風化させないように私たちがこの悲劇を伝える事が出来るようにしていきたいです。曾祖母は水戸空襲の時まだ15歳でした。私と同じ年齢の時にこのような体験をした事になります。私には耐えられないと思いました。曾祖母は今年90歳になります。長生きしてこれからも色々教えてもらいたいです。

私が好きな言葉は「彰往考来」です。平成27年度に大日本史編纂について調べている時に、その言葉を知りました。意味は過去を知り未来を考える。歴史を知る事でその教訓を活かすと言う事です。郷土研究もこれに当てはまると思います。水戸には古い歴史があり、偉大な先人がたくさんいました。これからも歴史を調べ今後活かして行きたいと思っています。

参考文献

- | | | | |
|------------|---------|----------------|------------|
| ・概説水戸市史 | (水戸市役所) | ・水戸の道しるべ | (水戸史学会) |
| ・水戸空襲戦災誌 | (水戸市役所) | ・水戸市の概要 平成29年版 | (水戸市役所) |
| ・水戸の町名 | (水戸市役所) | ・水戸の先人たち | (水戸市教育委員会) |
| ・水戸の近代100年 | (茨城新聞社) | ・これまで調べた郷土の資料集 | |